

# Waffle



Close the gender gap by  
empowering and educating women  
in the technology field.



# 2022 ANNUAL REPORT

日頃よりあたたかいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2022年は、Waffleにとって新たなチャレンジの年でした。Waffleでは、以前より中高生向けにプログラミングへの最初の一步を提供する Waffle Camp という1日完結型のプログラムや、グローバルなアプリコンテストである Technovation Girls に挑戦する国内参加者向けの支援プログラムを提供してまいりました。

これらに加え、より幅広い年齢の方にITという選択肢を拡げるべく、大学生・大学院生向けプログラムである Waffle College を始動しました。参加者が一からコーディングを学び、最終的にIT企業でのインターンシップ獲得をめざす試みをはじめました。履修生の半数以上が自主的に外部のハッカソンに参加/参加を予定するなど、全員がプログラミング未経験から始めたとは思えない素晴らしい成長を目の当たりにし、学生の持てる可能性に目を見張る日々です。

2年目となる Waffle Festival では、「ITは何歳からでも目指せる」「数学が得意でなくても大丈夫」といったメッセージを主軸に、ITをより身近なものとして・課題解決に欠かせないものとして捉えてもらうためのセッションを展開しました。

こうした具体的なプログラム提供に加え、政策提言や対外発信にも力をいれた1年でした。内閣府や経済産業省と繰り返しミーティングを行い、WAW!(国際女性会議)においては、女性とデジタル・STEM教育分野で登壇するなど、国内外で女子とノンバイナリーへのSTEM教育の重要性、ロールモデルや教育機会充実の重要性を発信する機会をいただきました。

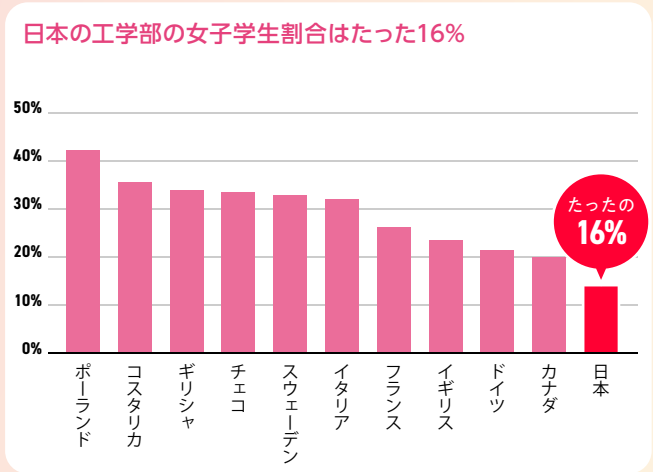
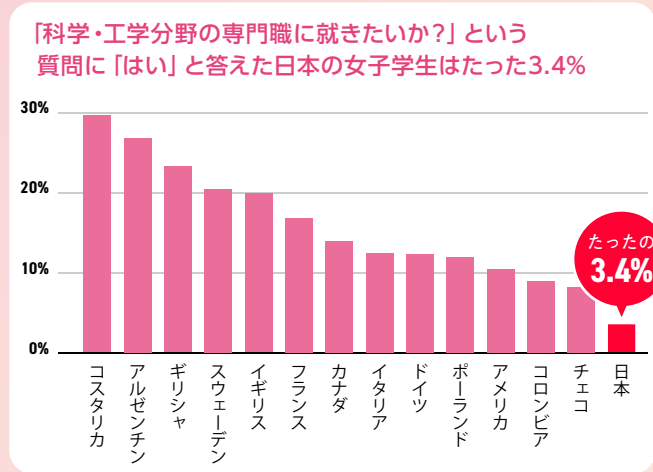
こうした活動を続ける中でメンバーも増え、インターンやプロボノの方々をふくめ、30人を超えました。今後もチームの強化に力を入れ、さらに大きなインパクトを生み出せるよう邁進してまいります。

私たちがこのような活動を続けることができるのは、日頃から応援いただいている企業や連携団体の皆さま、個人寄付者の皆さまあってのことです。どうぞこれからも、ITにおけるジェンダーギャップ解消をめざす仲間として Waffle とスクラムを組み、ともに課題解決のために歩んでいただければ幸いです。

NPO 法人 Waffle

# 教育とエンパワメントを通じて IT分野のジェンダーギャップを解消する

## 課題 データで見るSTEMのジェンダーギャップ



日本は、工学部に進学する女子の割合がOECDの中で最も低くばかりではなく、そもそもITやSTEM分野が女子の興味・進路に結びついていない現状があります。

IT分野に女性やジェンダーマイノリティを増やすことは、社会にとっても重要な課題です。IT分野に女性が増えるということは、単に女性の社会進出が進む・ステレオタイプ(ここでは性別役割分業意識にとらわれた考え方)を解消するというだけでなく、枠組み自体を問い直すということを意味します。

### 多くのジェンダーを包摂するテクノロジーへ

開発者に女性やジェンダーマイノリティの存在が考慮されていない科学技術には、重大なリスクが伴います。たとえば、21世紀にはいるまで自動車の衝突試験用ダミーには画一的なダミー(男性的身体)しか用いられていませんでした。また、治験を男性に対してのみ行っていた処方薬が、女性に重大な副作用をもたらすことが判明し、認可が取り消しになった例などもあります。女性やノンバイナリーが増えるということは、これまでテクノロジーに内包されてきた差別や男性中心的な設計に疑問を投げかけ、より幅広い人々を包摂することにつながるのです。

### 男女共同参画社会の実現を促進

IT業界は、AIやロボット技術の飛躍的に向上するなど、これからの社会にとっても必要不可欠な分野です。男女共同参画社会を目指す上で、IT業界により多くの女性やノンバイナリーの方々が進出することは有意義であると考えられますが、日本の女子の数学・科学的スキルは世界的にみてトップの水準にあるにもかかわらず、その才能が十分に発揮されているとは言い難い状況にあります。このようなポテンシャルの高い女性・ジェンダーマイノリティの方々がIT業界を目指すことにより、年々深刻化するIT人材不足の解決にも一石を投じることが可能です。

### Waffleのアプローチ

Waffleは、草の根活動として全国の中高生や大学生・院生へ教育機会を提供するとともに、政策提言によって社会構造に変革をもたらすための働きかけも積極的に行っています。

教育事業では、IT業界に一人でも多くの女子およびジェンダーマイノリティの方々を送り出すことに注力しています。一方、国際会議や関連省庁との議論の場では、Waffleの事業紹介を通じて問題意識を共有するとともに、さらに理工系女性や女性研究者の育成促進のために何ができるか提言を続けています。

1 <https://genderedinnovations-ochanomizu-univ.jp/Case-studies/crash.html#tabs-1>  
 2 <https://genderedinnovations-ochanomizu-univ.jp/Case-studies/drugs.html#tabs-2>  
 3 <https://data.oecd.org/pisa/mathematics-performance-pisa.htm>  
 4 [https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/daiyoji\\_sangyo\\_skill/pdf/001\\_s02\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/daiyoji_sangyo_skill/pdf/001_s02_00.pdf)

# Waffleの描くWomen in Techへの4つのステップ

## Step1

### ITを認知する

「大人になったらなりたいもの」ランキングでは、「ITエンジニア/プログラマー」と答える中学生男子は7.4%なのに対し、中学生女子は3.8%。高校生男子は9.7%なのに対し、高校生女子は3.5%に止まっています<sup>\*1</sup>。

Waffleでは、「IT」という選択肢を認知してもらうよう、書籍やSNSを通じてITに対する明るいイメージを醸成しています。また、多様な学生がITを自分ごととして認知するよう発信をしています。

## Step2

### 興味をもつ

理系に対するジェンダースtereotypeは強く、多くの女子およびノンバイナリーの中高校生などが「ITは自分とは関係ないものだ」と感じています。

Waffleでは、社会課題をITで解決するアプリの開発や、自分の好きを表現するウェブサイト作成などのプログラムや、ITエンジニアとしていきいきと活躍するロールモデルによるキャリアトークを提供することにより、ITへの興味が深まるきっかけづくりをしています。

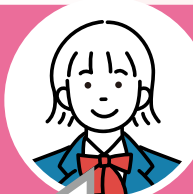
## Waffle Festival



ITには興味があるけれど、理系分野は女子には向いてない、だから私にも向いていないと思っていた。でもさまざまなバックグラウンドを持つ女性エンジニアのキャリアトークや、企業のジェンダーギャップ解消のための取り組みを聞いてみて、「やりたい!」という気持ちさえあれば何でも挑戦できるんだ!と思うことができた。ロールモデルとなる人や、応援してくれる人はたくさんいるし、どんどん頼って良い。早速やってみよう!

## Waffle Camp

## Technovation Girls



Waffle Campで初めてのプログラミングに挑戦。短い期間で本当にコードが書けるようになるのか不安だったけれど、講師やメンターの指導が手厚く、楽しく勉強できた。1からオリジナルのWebサイトを作ることができ、私でもできる!と自信をつけることができた。実際にプログラミングに触れてみて、もっといろいろなことをプログラミングの力で出来るようになりたいと思った。

## 中高生

<sup>\*1</sup> 2023年3月16日 第一生命保険株式会社 第34回「大人になったらなりたいもの」調査結果

## Step 3

### 進路にとりいれる

ITに興味があることと、進路として選択することの間には「自信」の壁があります。興味をもっていても、女子の少ない理工系で頑張れるのか、数学についていけるのか、などの不安をもつ生徒・学生に対し、Waffleでは仲間とメンターのいるコミュニティが支え、進路選択を後押しします。

実際にコードを書いてものを作った経験が強い自信となり、多くの参加者が「もっとやりたい!」という前向きな気持ちでIT系の進路を選択していきます。



今度はチームでアプリ開発に挑戦。さらにピッチイベントでは英語でプロダクトを発表…?! 躓くこともあったけれど、チーム開発は1人での開発と比べて、アイデア・技術・コミュニケーションの幅が広がって楽しい。  
アプリ開発に必要な技術を学べた上、どんな場所でも活かせる英語力・コミュニケーション力を身に着けることができた。そして同年代で高めあうことができる、かけがえのない仲間ができた。

大学生

## Step 4

### キャリアにつなげる

理工系以外の学科に進学した学生で、大学に入ってからITのキャリアに関心をもつ人はいるものの、学習機会とキャリア支援は十分に行き届いていないのが現状です。

Waffleでは、そのような女子およびノンバイナリーの学生に対して、IT分野でのキャリア形成の一步を踏み出せるよう、教育プログラムを提供しています。



### Waffle College

大学の勉強に並行しながらIT企業での技術職インターン獲得を目指す、Waffle Collegeに参加!  
全国各地から集まったメンバーと共に、基礎からプログラミングを勉強。Technovation Girlsと同様に、素敵な仲間が増えた。  
夏休みにはWaffle Campにメンターとして参加。きっかけをくれた場所に、教える側として参加できるのは感慨深い…(泣)  
そしてチーム開発、インターン獲得講座をクリアし、無事にインターンの合格を掴みとった!  
これからは憧れだった現場で働くことに!

# Waffle Festival

## はばたけ、女性たち

全ての人が働きやすい  
IT業界をめざして

開催日時: 2022年12月16日、17日

形式: オンライン

対象: ITに興味があるすべての人

参加者数: 2日間でのべ315名

### プログラム (一部抜粋)

- スプツニ子!氏、内藤 佐和子徳島市長、アメリカ大使館 Grace Choi 氏によるキーノート・スピーチ。
- ビジネス × 社会的インパクトがつくる未来
- ITのすゝめ ~文系からITキャリアへ!
- 大学生との進路相談トーク

### 目標

生徒・学生向け: IT業界で活躍する女性たちに登壇いただくことで、次世代の女子およびノンバイナリーがテックリーダーという選択肢を考えられるようになり、次のアクションに向かうきっかけを作る。

※テックリーダー: Waffleでは、テックを活用し、世の中の課題解決をリードする人材と定義しています。

社会人向け: 女子およびノンバイナリーへのIT教育を進める重要性を理解し、企業が具体的なアクションを取るための実例提示やアドバイスを提供。

### 概要

WaffleのミッションであるIT分野のジェンダーギャップ解消というテーマを基軸に、企業におけるDE&I推進の実態や、実際にIT業界で活躍する女性ロールモデルの紹介を通じたキャリアセッションなど9つのセッションを展開しました。

前年よりも幅広い層に参加していただくため、社会人向けトラック+学生向けトラックを用意しました。

### 満足度・IT系の進路に興味をもった生徒・学生の割合



アンケートに回答した生徒・学生の80%が「いろいろな進路の選択肢を考えたいと思うようになった」「IT系の進路にも興味があった」「さまざまな業界でITを活用する進路に興味があった」のいずれかを選択。IT分野に進むことへの見方が変わったという声も目立ちました。



ロールモデルになるような方がたくさんいて、私にもプログラミングやWebデザインができるのかもしれない!という興味につながりました。(中学生)



理系は苦手だからという理由で自分の将来の幅を狭めてしまうのはとても勿体無いことだと気付かされたので、まずは数学の授業をもっと真面目に受けてみようと思います!(高校生)



文系からでもプログラミング等のスキルを必要とする企業に就職できることが分かりました。また、仕事をしながらの学びにこちらも刺激を受けました。(社会人)



# Waffle Camp

## 好きをコードで 表現しよう！

開催日程: 1日、もしくは2日間の開催。

学校の長期休暇を中心に、年間を通して開催。

場所: 札幌市、豊島区、横浜市、静岡市、

福井県、三重県、大分県、埼玉県、

長野県上伊那広域連合

(2022年夏~2023年春までの開催)

対象: ITに興味を持つ女子および

ノンバイナリーの中高校生

### プログラムの内容

- 初めてコーディングをする人たちにに向けた、Waffle 独自の教材を使用
- 現役エンジニアによる参加者限定のキャリアトーク。業界の最前線で働く女性から話を聞き、直接質問ができる
- Waffle College 参加者を育成し、中高生のメンターになることで身近なロールモデルを見せる効果も

### 目標

- プログラミングに興味があるけど踏み出せない人に一歩踏み出すきっかけ作る
- プログラミング関心度の向上
- 理系キャリア関心度の向上
- キャリアトークに登壇するロールモデルおよびメンターを務めるWaffle Collegeの参加者の自信向上

### プログラム評価

103<sup>※</sup>  
参加者数

中学生42名、高校生61名

63%

理工系進路の  
希望者向上



プログラミングは初めてで難しかったけど、楽しく作業をすることができた。(参加者)



自分ではできないと思っていたプログラミングができてとても楽しかった。(参加者)



メンターさんのアドバイスが分かりやすく、スラスラと進めることができた!(参加者)



中高生の「できた!」という瞬間を一緒に体験できるのは、とてもやりがいを感じた(メンター Waffle College生)



# Technovation Girls

## アプリを作って 世界を変えよう!

開催期間: 2021年12月26日~2022年5月8日

対象: 女子およびノンバイナリーの中高校生

参加者数: 33チーム120名

「コンピュータ・サイエンス」「ビジネス・リーダーシップ」「起業家精神」の3点において参加学生の自信を向上させる

### プログラム評価

33

チーム数

120

参加者数

81%

プログラミング 自信向上

60%

イノベーション・課題解決スキル向上

### プログラム例

#### 起業家ブートキャンプ

チームで取り組みたい社会課題を探り、ペルソナへのインタビュー設計、ビジネスモデルの作成を経て、最終日には各チームがチームプロダクトのCMとピッチビデオを作成しました。このブートキャンプの目的は、三日間で完璧なビジネスを生み出すことではありません。これから3ヶ月間のプロジェクト期間内で様々な壁にぶつかる生徒が、その都度必要な方向転換をしたり、はたまた一からビジネスを作り直す必要が出てきたときに、躊躇なく前に進み続ける力を与えるものです。

#### アプリ開発ブートキャンプ

Technovation Girlsの公式カリキュラムで提案されている主要なレッスンに倣い、一貫したテーマと構造に従って日本語の教材としてアプリ開発を学べる12レッスンを制作。授業ではIT企業に勤めるソフトウェアエンジニアのボランティアがTA(ティーチングアシスタント)として参加し、プログラミングだけではなくソフトウェアエンジニアとの交流を通じてITの世界を知る2週間となりました。

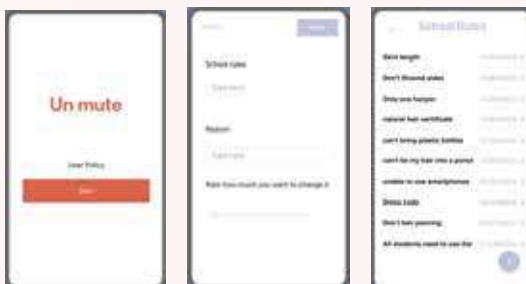
#### Japan Region Pitch Event (2022年5月8日 Waffle主催)

日本公式ピッチイベントには総勢30チームが参加しました。わずか3ヶ月間という短い期間に作り上げたとは思えない壮大なプロジェクトが続きと発表され、オンラインであることを忘れるほどの熱気に包まれました。

一部は公開イベントとして開催したため、関係者のみならず、メディアや一般の視聴も多くあり、日本全体に女子およびノンバイナリーの中高校生が持ち得る最大限の力とその可能性を伝える絶好の機会となりました。

#### Unmute by scholatibe (team6)

このアプリでは、校則や行事、施設など学校生活に関する意見を全生徒が投稿でき、その意見を先生と共有できるようになっています。このアプリを通じて、生徒と学校は対等な関係でいられるようになります。



※TechnovationGirls日本公式ピッチイベントは、国内公式アンバサダーであるWaffleが独自に主催するイベントであり、Technovation Girlsのグローバル審査とは別に開催するイベントです。



はじめはアプリ開発に興味があったので参加しましたが、アプリ開発後にどのように利益につなげていくかというビジネス面で学べたことが期待の何倍も多く、今後生かしていきたいと考えています。



プログラミングに興味を持っていたものの、何をしたら良いのか、どうやって始めたら良いのかわからない状態でした。しかし、今回このプログラムに参加したことでプログラミングに対する考え方など基本的なことを学ぶことができました。また、先生方が丁寧で親切なおかげで一つ一つ確実に課題をクリアすることができました。そして、その経験が自信にもなりました。本当に参加してよかったと思いました。



# Waffle College

## 全国の女子および ジェンダーマイノリティの 大学生・大学院生のための テックキャリアを目指す コミュニティ

### 開催期間:

前期 2022年4月~2022年7月

後期 2022年10月~2023年3月

形式: オンライン授業はオンライン、  
夏と春にオフ会を開催

対象: 女子およびノンバイナリーの大学生、  
大学院生、短大生、専門学生(国内外問わず)

前期修了者数: 79名(修了率99%)

後期修了者数: 27名(修了率90%)

サマーインターンにも多数の学生が参加・応募

### プログラムカレンダー

4月~5月: 前期レクチャー・キャリアイベント

6月: Waffle Campメンター講習

7月: 前期オフ会(東京&大阪)

7月~8月: Waffle College生がWaffle  
Campにメンターボランティアとして参加

8月: 後期選考・結果発表

10月: 後期レクチャー開始

11月: 後期オフ会(東京&大阪)



### 目標

学生が多様なキャリアについて知るとともにプログラミングの学習を通して、IT分野のキャリアにつなげる

### 概要

日本全国から参加する刺激的な仲間達との出会いがある。テックで社会を変えたい人、ITキャリアで海外に羽ばたきたい人、一緒に勉強する仲間を見つけられるコミュニティを提供

前期修了後はWaffle Campの公認メンターとしてデビュー  
後期修了後はIT企業の技術職インターンの獲得を目指す

### 背景

他国では、IT技術者を増やすために情報系以外の出身の人を技術者として育成するさまざまなプログラムが存在します。Waffle Collegeの狙いは、工学部女子比率が16%の日本において、工学部以外の女子を技術者として育成するパスを日本社会に生み出し、女性IT技術者の増加を促進することにあります。

### プログラム評価



※1 うちコンピューターサイエンスを専攻していない学生は100%

※2 79%の生徒が、コーディングの能力に自信がついたと報告した。

※3 アンケートの回答者67名

当初、技術への関心は高かったものの、技術職やインターンシップへの応募を予定していた学生はわずか20%でした。

プログラム終了後、アンケートによると83%の生徒が技術職(技術職に限らない)のインターンシップに応募した、または応募する予定。

56%の学生がハッカソンに参加した、または参加する予定。

91%の生徒がプログラミングで自分の学習計画を立てています。



全くプログラミングを触ったことのない状態から、HTMLやThinkableを使用してプログラミングできて自分に自信がついたと思います。分からないところがあっても、周りに助けを求めれば必ずヒントをくれる環境でとても良かったです。(前期参加者)



競い合ったり、蹴落としたりするのではなく、お互いに成長しあっていこう、という雰囲気が私にはとてもあっていて、本当に居心地の良い場所でした。メンターの方が親身になって話を聞いてくださり、丁寧に教えてくださったことも嬉しかったです。(前期参加者)

# 政策提言

Waffleが行った政策提言に関する活動をご紹介します

## Waffleの活動・関連する動き

2022年2月15日	「内閣府男女共同参画計画実行・監視専門調査会」にて提言
2021年10月～2022年3月	経済産業省「デジタル関連部活支援の在り方に関する検討会」に田中沙弥果が有識者として参加
2022年5月～2022年12月	「駒崎弘樹の政策起業道場」第一期生に選出・参加
2022年6月	経済財政運営と改革の基本方針2022(骨太の方針)に「女子中高生のIT分野を始めとした理工系の学びや分野選択を促進する」が記載
2022年9月16日	よりよい女子学生向けの実践事例を学ぶため、米国のハーベイマッド大学・タフツ大学等を視察
2022年10月8日	第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに登壇
2022年12月3日	国際女性会議WAW! 2022 分科会3「女性とデジタル・STEM教育」に登壇

## 提言について

### 高中生IT教育におけるジェンダー視点の取り込み強化

#### 現状

政府の理工系人材育成関連の事業において、女子中高生への支援に拠出される予算が少ない状況が続いていました。また、保護者・教員のジェンダーバイアスや、大学の工学部やプログラミングスクールに男性が圧倒的に多い環境も女子学生の進路選択に影響を与えています。

#### Waffleの提言

こうした現状を踏まえ、WaffleからはSTEM分野の裾野を広げる事業の優先順位をあげる必要性を訴えました。また、学校におけるデジタル関連活動でも女子とジェンダーマイノリティを取り残さないため、興味を持ちやすい教材を取り入れることを提言しました。

この結果、経済産業省の「デジタル関連部活支援の在り方に関する検討会」の提言書に、考慮すべき点としてジェンダーの視点が明記されました。

### 社会の変化

- ・理工系に進む女子学生増加のためのポジティブアクションの実施
- ・文部科学省が2023年度入学の大学入試から、理工系分野に「女子枠」を創設するよう各大学などによびかけ
- ・「経済財政運営と改革の基本方針2022（「骨太の方針」）」に以下の文言が記載  
「ジェンダーバイアス解消のための総合的な理解の醸成と支援を図り、女子中高生のIT分野を始めとした理工系の学びや分野選択を促進するなどにより、理工系分野の女性教員及び女子学生の割合を向上する取組を加速する。」

### 女性のIT分野への参画推進

#### 現状

IT業界には圧倒的に男性の人材が多く、このままでは男女共同参画に向けた構造を変革することが難しい状況があります。

#### Waffleの提言

Waffleからは、デジタル化戦略に「女性の参画推進」を盛り込むことを提言しました。IT分野は男女の賃金格差が比較的小さいため、IT分野に女性が増えることは男女共同参画の推進にもつながります。

### 社会の変化

「女性デジタル人材育成プラン」策定  
プランをもとに、今後3年間女性デジタル人材の育成を強化することを約束

# 参加者インタビュー



## 古川 美咲さん

福岡県の高専1年生（情報工学科）。  
2022年Technovation Girlsに参加。  
IT分野での海外進学をめざし、  
英語と情報工学を勉強中。

## Technovation Girls (以下、TG) に参加してみてどうでしたか？

コーディングの内容は難しく、全部を完璧に理解できたわけではないですが、グループで補い合うことができたので総じてすごく楽しい時間でした。チームは5人グループで福岡、北海道、神奈川など日本全国の人たちがいて、年齢もバラバラだったのですが、オンライン上で話し合って役割分担をしていいチームを作ることができました。『あったらいいな』というアイデアが形になっていくのが面白かったです。

## TGに参加して、変わったことは何ですか？

参加する前は、グループワークであっても困りごとをひとりで抱え込んでいることが多かったのですが、TGに参加してまわりの人に共有したら『一緒に考えてくれるんだ!』ということに気づきました。その後まわりの人にも困っていることを話せるようになりました。

## どのようなアプリを作りましたか？

気候変動を解決するために行動できるアプリです。私は暑さに弱く、夏に長時間外にいると体がだるくなるんです。毎年暑くなっているの、このまま暑くなったら大変だという思いから、気候変動に興味がある子たちとグループを組みました。大きな社会問題も、アプリを通じて身近な行動に変えていけるのがアプリのいいところだと思います。

## 高等専門学校への進学はどのように決めましたか？

元々理系でしたが、情報工学に興味をもったのはTGで『自分でもコードを書けるようになりたい』と思ったことがきっかけです。高専という選択肢は母に教えてもらいました。一般受験せずに大学に編入できるというのが魅力的だったのと、オープンスクールで見た先輩の卒業研究が面白く、自分も技術を使って人の役に立つ研究をしたい!と思いました。

## これから高専・大学でどんなことをしていきたいですか？

大学進学後は、まずは技術を身につけたいです。私は頭痛持ちなので、同じような頭痛持ちの人のためになにか開発をしたいなと思っています。制御情報工学科にいますので、気圧を制御して頭痛を抑制できる機械などが作れるかも。アイデアを考えてアプリにしたTGの経験が楽しかったので、アイデアを実際に形にする、ということ続けていきたいです!



## 杉山 萌音さん

東京都の大学2年生（理系）。  
妹の恵呼さんがWaffleのプログラムに  
参加したことからITに興味をもち、  
Waffle College 2022前期に参加。

## 杉山 恵呼さん

東京都の大学1年生（理工学部）。  
Waffle Campに2020年に参加したのち、  
Technovation Girls 2021に参加。  
現在発売中のWaffleの書籍『わたし×IT  
=最強説』にもロールモデルとして登場。

## Waffle Camp・TG (恵呼さん)・Waffle College (萌音さん) にそれぞれ参加してみて、どうでしたか？

**恵呼さん** TGには、自分はある程度英語ができると思って挑んだのですが、外国人のエンジニアのメンターさんと組んでみたら思ったより難しくして(笑)。さらにWaffle Campの時とも違うプログラミング言語、環境だったこともあってより難しかったのですが、アプリができあがってみたら達成感がすごくありました。私たちは、iOSで夫婦間の家事分担を可視化するアプリを作りました。家事にかけている時間を可視化したり、相手に感謝を贈れる機能を実装しました。Waffle CampやTGでIT系に進みたいというビジョンができたり、プログラムを通じていろいろな方のお話を聞いて自分の世界が広がったなという実感があります。同世代で大きな夢を持っている子やTGに参加するまでにたくさんの経験をしてきた子等がいたことも刺激になりました。

**萌音さん** 私は浪人中に、起業をした大学教授の方のお話を聞いて、将来起業したいな、ということぼんやりと考えていました。受験が終わり、起業につながるって何だろう?と考えたときに、ITを知っておけば、IT自体を仕事にしなかったとしても役に立つだろうと思ったんです。その時に恵呼からWaffleのことを教えてもらって、ちょうど調べたらWaffle Collegeの1期生の募集をしていて、実際にウェブアプリを作って自信をつけ、外部の開発コンテストにも参加しました。

**恵呼さん** TGやWaffle Campに出会っていなかったら、進路にはすごく悩んでいたと思います。数学も得意だったので理系ということは決めていたのですが、そこからどうしよう、というのがありました。今も、情報工学の技術を身につけたい!という気持ちがあるだけで明確に決まっていらないのですが、それはこれから考えていけたらなと思っています。

## Waffleのプログラムへの参加を考えている方へのメッセージをお願いします。

**恵呼さん** 迷っているんだったら、参加してほしいと思います。いろいろな考え方を持っている人と出会えるし、世界が広がります。

**萌音さん** Waffleではできることも増えますが、自分ができないことにも気づきます。だからこそ挑戦して強くなれたり、自分に必要なことがわかるので、何かにチャレンジしたい人にはおすすりめしたいです。また、はじめから経験者である必要がないのも魅力的だと思います。自分と同じような『これから頑張っていこう』っていう人がいっぱいいるので、そういう方にもおすすりめです。

# 企業コメント



SMBCグループのITの中核部門を担っている私たちの会社では、多様な社員が活躍できるように様々な取り組みを続けてきました。現在ではエンジニアの女性比率も約3割まで増え、多くの女性が活躍していますが、IT業界全体を見ると、未だマイノリティであり、社会的にも男性の職業というアンコンシャスバイアスが残っているようにも思います。こうした現状を変えていくには、若い世代への意識改革のアプローチが必要と考えていたところ、Waffleと出会い、その理念に大いに共感しました。スポンサー企業としてWaffleのイベントにご一緒させていただいておりますが、真剣に、そして生き活きと楽しそうに、アプリ開発等に取り組み、成長していく中高生、大学生の姿にとっても感動しました。IT業界のジェンダーギャップを解消し、より良い未来を実現するために、これからも共に取り組んでいきたいと思っております。

株式会社日本総合研究所  
常務執行役員 寄高 由季子

2019年の設立まもない頃から、ささやかながらWaffleへの支援を続けさせていただいております。その頃から数えて3年のうちに、活動の幅、規模、関わる人の数をどんどん大きくされていくのを見ました。

初めて代表の田中沙弥果さんからWaffleの信念を聞いたとき、「自分たちでは絶対にできないことを、この人は本気でやっているんだ」と感じました。「ジェンダーギャップの解消」にはとても長い時間がかかると思います。瞬発力が必要な短距離走ではなく、山あり谷ありのマラソンに近いと思います。単発のイベントへの協賛ではなく継続的な支援をすることで、Waffleが本気でジェンダーギャップの解消に取り組む助けになれば良いと考えています。

良いプロダクトは多様な意見があってこそ生まれると思いますが、Waffleの活動によって、社会のどこかで多様性を受け入れられる機会が増えていくことを願っています。

EDOCODE株式会社  
代表取締役 田村 鷹正



## メディア掲載

2022年3月28日

## 読売新聞「少女らの視点 アプリ開発」

当時、Technovation Girls 参加中の学生が取材を受けました。お互いを全く知らないところから、一丸となって変化を起こしたい同年代の学生をサポートするアプリを開発する様子が伝えられています。

2022年5月10日

## NHK クローズアップ現代+ 『女の子なんだから・・・』女子の自信を砕く呪いの言葉

「女の子なんだから」の呪いを解く活動の一環として Waffle が取材されました。また、プログラム参加者だけでなくインターンが Waffle で働く中でエンパワーされたことをコメントする姿も印象的でした。

2022年7月25日

## 福井新聞「ITの仕事 女子も興味を 県教委など 来月オンライン講座」

2022年より本格的に始まった、地方自治体と連携した Waffle Camp “ホームタウン” プロジェクト。学生の変化だけでなく、地方のメディアや教育関係者にジェンダー平等の価値観を啓発することができるという波及効果も得られました。

## ● 総メディア掲載実績

Web

37

新聞

23

雑誌

20

ラジオ

1

テレビ

4

もっと詳しく: [waffle-waffle.org/media/](http://waffle-waffle.org/media/)

## 登壇

2022年3月6日 主催 神山まると高専設立準備財団

## 「神山まると高専 presents 未来の学校 FES」

2022年3月7日 主催 レノボ・ジャパン合同会社

## いつまで続く?“女性×理系”に対する無意識のバイアス ～学校や企業ができることは～

官公庁に関する登壇は「P10. 政策提言」に掲載しています。

## 受賞

2022年3月24日

## PERSOL Work-Style-AWARD 2022 受賞

## お知らせ

2022年2月24日

一般社団法人 Waffle から特定非営利活動法人 Waffle へ移行しました

2022年9月26日～29日

アメリカ・フロリダで開催されたテック系女性およびノンバイナリーののための祭典「Grace Hopper Celebration」に参加しました

# 協賛企業・団体

(順不同)

メットライフ生命保険株式会社

テクノプロ・ホールディングス株式会社

グーグル合同会社

株式会社日本総合研究所

公益財団法人日本財団

TokyoDev

アメリカ大使館

ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社

レノボ・ジャパン合同会社

アマゾン ウェブサービス ジャパン合同会社

デロイト トーマツ グループ合同会社

株式会社サイバーエージェント

EDOCODE株式会社

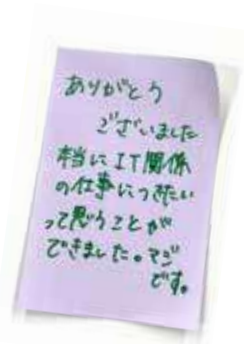
Skyscanner

ヤフー株式会社、LINE株式会社 (現LINEヤフー株式会社)

ソニーピープルソリューションズ株式会社

サイボウズ株式会社

株式会社Jストリーム



# 寄付でWaffleを応援する

Waffleは、日本中で女性のテックリーダーを育成し、多くの社会課題を解決することをめざしています。皆さまからのあたたかいご支援が、私たちの活動の原動力です。

私たちが活動を持続するためには皆さまからの寄付が必要不可欠です。いただいた寄付は、プログラミングに取り組むための環境が不足している中高生へのパソコンやWiFi端末の貸し出し、教材の改善などの費用に活用させていただきます。



個人寄付はこちらから  
[syncable.biz/associate/555](https://syncable.biz/associate/555)

お支払い方法（銀行振り込み / カード）と頻度の選択が可能です

毎年、Waffleは独立した第三者機関による監査を受け、寄付金が適切に管理されていることを確認しています。皆さまからいただいた寄付を効果的かつ効率的に活用し、IT分野のジェンダーギャップ解消に向けて活動してまいります。

月300円からご寄付いただけますので、ぜひ、皆さまからのご支援をお願い申し上げます。

## メンバー

Co-founder & CEO 田中 沙弥果	アドバイザー 大崎 麻子	近藤 百花	石戸谷 由梨
Co-founder 斎藤 明日美	アドバイザー 寶角 淳	城間 彩加	市村 衣未
ディレクター 森田 久美子	アドバイザー 増井 雄一郎	鈴木 まいら	小玉 淑乃
マネージャー 毎床 愛美	アドバイザー 大本 マイケル 敏郎	ステブンス ケイス	高木 智代
マネージャー 古瀬 麻衣子	アドバイザー 白川 寧々	高木 里穂	村上 綾菜
経理 利根川 亮平	アドバイザー 瀬戸 昌宣	高橋 裕希	寺門 美緒
総務 竹永 美咲	安藤 祐介	仲内 麗華	西野 麗華
広報 辻田 健作	尾形 多愛	舟津 七海	布瀬谷 千桜
アドバイザー 利根川 裕太	大原 夏実	諸石 隆史	布瀬谷 里桜
アドバイザー Yan Fan	神谷 優	阿部 真緒子	

# Waffle

2022  
ANNUAL REPORT